

次期千葉県がん対策推進計画(H30～H35) ロジックモデル 検討例

施策		中間アウトカム		最終アウトカム	
内容	指標		内容	指標	
	現状値	目標値		現状値	目標値
喫煙による健康への影響に関する正しい知識を普及するための啓発活動の実施	がん予防展・がん講演会の参加者数の増加		喫煙する者が少ない	喫煙する者の割合の減少	
	予防展: 6,164名 講演会: 230名 (平成29年度)			男性 25.1% 女性 8.4% (平成27年)	男性 20% 女性 5% (平成34年)
市町村を対象としたがん検診に係る研修会や実地調査による事業評価を行い、がん検診の精度管理の支援	集団検診チェックリスト項目の全国平均の実施率(H27)を上回る市町村数の増加		効率的にがん検診が実施されている	精密検査の受診率の増加	
	34 (平成27年度) ※胃がん			79.4% (平成27年度) ※胃がん	90%
地域緩和ケアに係る研修会の開催、社会資源調査の実施	地域緩和ケアに係る研修会の受講者数の増加、社会資源調査における看取り施設数の増加		地域の在宅緩和ケアが提供されている	住まいの場での死亡割合の増加(悪性新生物)	
	緩和ケア研修会: 161名 調査: 155施設 (平成28年度)			14.4% (平成27年)	経年ごとに上回る
相談員向け研修会の開催、受講	ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修の修了者数の増加、がん相談支援センター相談員の資質向上に関する国がんが実施する研修の受講機関数(受講者数)の増加		さまざまな患者・家族の相談に応じ、適切な情報が提供されている	拠点病院等の相談支援件数の増加	
	ピア・サポーター研修: 197名 相談員研修等: 今後、調査予定 (平成28年度)			64,557件 (平成27年1月～12月)	



がん患者とその家族が、がんと向き合いながら、生活の質を維持向上させ、安心して暮らせる社会を目指します

No.	評価指標			(千葉県) 平成27年
医療の進歩				
1	全1	医療が進歩していることを実感できること	+	83.5%
適切な医療の提供				
2	全2a	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(からだの苦痛)	+	55.2%
3	全2b	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(痛み)	+	71.7%
4	全3	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(気持のつらさ)	+	61.6%
5	全4	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(自分らしい生活)	+	75.4%
6	全5a	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(治療の見通し)	+	90.2%
7	全5b	患者が苦痛の制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(生活の見通し)	+	77.7%
8	全7	患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること(尊重)	+	82.0%
9	全8	患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること(切れ目のない治療)	+	73.0%
10	全9a	患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(納得できる治療)	+	85.5%
11	全9b	患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活を送ることができること(納得できる支援)	+	75.2%
適切な情報提供・相談支援				
12	全12	正確で、患者のつらさに配慮した生き方を選べるような情報提供がきちんと提供されること	+	71.2%
13	全13	相談できる環境があると感じる	+	67.5%
経済的困窮への対応				
14	全14a	経済的な理由で治療をあきらめる人がいないこと(治療の変更・断念)	-	2.7%
家族の介護負担の軽減				
15	全16	家族のQOLも保たれていると感じられ、自分も安心できること(家族への負担)	-	45.2%
16	全17	家族のQOLも保たれていると感じられ、自分も安心できること(家族の支援)	+	36.8%
がんになっても孤立しない社会の成熟				
17	全18a	がん患者自身が主体的にがんと向き合う姿勢を持ち、社会の一員であることを実感できること(家族からの孤立)	-	27.8%
18	全18b	がん患者自身が主体的にがんと向き合う姿勢を持ち、社会の一員であることを実感できること(社会からの孤立)	-	18.6%
19	全18c	がん患者自身が主体的にがんと向き合う姿勢を持ち、社会の一員であることを実感できること(職場での孤立)	+	95.4%

割合が高い方がよい指標を「+」、低い方がよい指標を「-」としている。